

平成27年度衛生研究所研究課題内部評価結果報告書

1 評価実施組織 衛生研究所研究課題内部評価検討会議

2 開催年月日 平成27年7月16日（木）

3 開催場所 衛生研究所1階講堂

4 評価方法 下記の5段階で評価した。

(1) 事前評価

- 5：独創性・貢献度等が高く、是非採択した方が良い
- 4：採択した方が良い
- 3：部分的に検討する必要がある
- 2：大幅に見直しする必要がある
- 1：採択すべきではない

(2) 中間評価、期間延長、研究者変更

- 5：独創性・貢献度等が高く、是非継続した方が良い
- 4：継続した方が良い
- 3：部分的に検討する必要がある
- 2：大幅に見直しする方が良い
- 1：中止すべきである

(3) 事後評価、追跡評価

- 5：計画以上の成果が得られた
- 4：計画どおりの成果が得られた
- 3：計画に近い成果が得られた
- 2：わずかな成果しか得られなかった
- 1：成果が得られなかった

5 評価結果

(1) 事前評価、期間延長、研究者変更

区分	整理番号	研究課題名	総合評価
事前	27-01	下痢性貝毒の機器分析法の開発と妥当性評価	4.3
	27-02	カツオの生食によって惹起される胃腸炎様症状の起因物質の検索	3.7
	27-03	千葉県におけるアルゼンチンアリの侵入状況調査	3.8
	27-04	流入下水中に存在するウイルスの動向把握	4.1
	27-05	千葉県におけるダニ媒介性感染症に関する研究	4.0
	27-06	県内市町村の平均自立期間の算出方法及び活用に関する検討	3.8
	27-07	歯科口腔保健と作業関連疾患との関連に関する実証研究	4.0
	27-08	健康を創出する生きいき食教育プログラム評価指標の開発	4.0
	27-09	海匝地域の健康格差の実態解明と縮小に向けた研究	4.3
	27-10	健康情報に係るビッグデータの活用を可能にするための環境整備	3.8
期間延長	21-02	病原細菌の細菌学的・系統学的解析	3.9
	23-02	クロコウジカビおよび近縁種のヒトの健康に対する安全性の評価	4.0
	24-01	腸管出血性大腸菌 O157 の系統学的解析による動態の把握	4.6
研究者変更	25-04	呼吸器感染症起因ウイルスの動向把握	4.0
期間延長 研究者変更	25-05	健康食品に含まれる医薬品成分（ビンカミン及びビンポセチン）の分析について	3.7

事前評価課題 10 課題のうち、27-01、27-04、27-09 の 3 課題を平成 27 年度の重点研究課題として選定した。

(2) 事後評価

整理番号	研究課題名	研究期間 (変更前期間)	総合 評価
22-02 H22 重点	離島・農村地域における効果的な生活習慣病 対策の推進に関する研究	平成 21 年度～ 平成 26 年度	4.0
<p><研究の概要></p> <p>千葉県農村地域において平均寿命が短命である海匝地域の3市（銚子、旭、匝瑳）を対象に、短命な原因の探索を行い、中期的な対策としてアクションプランを策定、実施した。具体的には①減塩運動を始めとした生活習慣病予防のための食生活改善の推進、②がんの早期発見・早期治療のためのがん検診受診率向上に向けた活動、③メタボリックシンドローム減少のための特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上に向けた活動を実施した。</p> <p><研究成果></p> <p>標語募集や各種イベント、ポスターやリーフレットを用いて地域一体となったキャンペーンを実施し、新たな減塩活動の推進を図った。また、銚子市内の小学4年生に対し食育プログラムを実施して随時尿中排泄食塩量を調べる介入調査では、食育プログラム実施校では未実施校と比較して尿中食塩量が低下し、アンケートでも食生活に対する知識の増加、態度の形成がみられた。</p> <p>検診未受診者に対して視覚的に受診を訴えるビラを作成、各種メディアを使用した受診の広報、ポイント制による景品の抽選等の受診を誘導する施策を複数実施したところ、乳がん、子宮がん、大腸がんの検診受診率は3市とも上昇した。胃がん、肺がんの検診率はもともとの受診率が低かった銚子市で上昇した。また、特定健診受診率は、もともとの受診率が低かった銚子市で上昇した。特定保健指導実施率は旭市、匝瑳市で上昇した。</p> <p>研究班全体としては、「離島・農村における健康づくりへの住民参加促進ハンドブック」を作成し、生活習慣病予防対策を体系的に整備して、実践するモデルを形成することができたが、千葉県に限れば、東日本大震災における津波の影響、人事異動などがあり、アウトカムを得られるところまでは達しなかった。今後、健康疫学研究室の課題として継続するとともに、全県への波及を図る予定である。</p>			

整理番号	研究課題名	研究期間 (変更前期間)	総合 評価
23-06	ICP-MS 測定による千葉県内の飲料水中の金属類の検出状況調査	平成 24 年度～ 平成 26 年度	3.1
<p>研究成果</p> <p><研究の概要></p> <p>生活環境研究室では、県内の各機関の飲料水について水質検査を行っている。平成 15 年に水道水質基準が大幅に改正されたのを契機に平成 16 年度以降、誘導結合プラズマ質量分析装置 (ICP-MS) を使用して金属類 11 項目の測定を行っている。告示法では他にも原子吸光光度計、誘導結合プラズマ発光分光分析装置が使用可能とされているが、他の装置に比べ、ICP-MS は微量な元素も高感度に測定可能であり、飲料水中の金属類について、より詳細な検討が可能となる。</p> <p>平成 16 年度から平成 23 年度までの ICP-MS で測定した検体の成績について解析を加え、県内の地域ごとの飲料水中の金属類の検出状況を調査する。</p> <p><研究の成果></p> <p>平成 16 年度～23 年度の成績について、地域別、水道施設別で結果をデータベースにまとめた。</p> <p>本研究により得られたデータは、今後の県内の水質検査を行うにあたって適切な定量範囲を設定するための基礎データとなった。本研究で得られたデータをもとに当所の検査方法について告示等も確認の上で最適化を行い、その方法の妥当性評価を行った。また、その過程で得られた知見を研修会等において受講者に還元した。</p> <p>まとめた結果は平成 27 年度千葉県公衆衛生学会で発表予定である。</p>			

整理番号	研究課題名	研究期間 (変更前期間)	総合 評価
24-05	健康食品中のスタチン系薬剤の一斉分析法について	平成 25 年度～ 平成 26 年度	4.1

<研究の概要>

スタチン系薬剤はコレステロールの生合成を抑制し、血中コレステロールを低下させる医薬品成分である。海外において、高血圧、脂質代謝異常症、冠動脈疾患の予防効果を暗示した健康食品からスタチン系薬剤の一つであるアトルバスタチンが検出され回収された事例や高濃度のロバスタチンを含有する紅麹を含む健康食品が回収された事例が報告されている。紅麹を含有した食品中には、少量のロバスタチンが含有しているといわれているが、国内に流通している製品における含有量の知見はない。紅麹は医薬品の範囲に関する基準（食薬区分）において医薬品的効能を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）であるが、ロバスタチンの含有量によっては、健康被害を生じる恐れが懸念される。特に、フィブラート系薬剤（高脂血症治療薬）を服用している患者の場合においては、薬物相互作用により横紋筋融解症のような重篤な副作用が発生する可能性もある。

そこで健康食品中のスタチン系薬剤の一斉分析法を構築するとともに、その方法を用いて高血圧、脂質代謝異常症、冠動脈疾患の予防効果を暗示した健康食品についてスタチン系薬剤の混入の有無を調査するとともに、紅麹含有健康食品について、スタチン系薬剤の混入の有無及びロバスタチンの含有量を調査する。

<研究成果>

UPLC/PDA を用いて、健康食品中のスタチン 12 成分の一斉分析法を構築し、高血圧、脂質代謝異常症、冠動脈疾患の予防効果を暗示した健康食品及び紅麹含有健康食品のスタチン含有量の実態調査を行った。24 製品について検査した結果、1 製品について、ロバスタチンの 1 日摂取量が 6.74mg となる結果となった。米国では、健康食品の 1 日摂取量中にロバスタチンが 5mg 以上含まれている製品については、摂取しないよう注意喚起されており、当該製品については、それを超えることから、健康へ影響する可能性が示唆された。その結果について、日本薬学会第 134 年会にて発表し、食品衛生学雑誌第 55 巻第 2 号に掲載された。

整理番号	研究課題名	研究期間 (変更前期間)	総合 評価
26-03	生活習慣病対策の発症予防に資するための 歯科関連プログラムの開発とその基盤整備 に関する研究	平成 26 年度	4.1
<p><研究の概要></p> <p>特定健診・特定保健指導には現在、歯科関連プログラムは制度として導入されていない。①導入を図る科学的根拠、②導入するプログラムの内容、③導入するための基盤整備、の3点について検討した。</p> <p><研究成果></p> <p>①文献レビューから、歯科関連プログラムを特定健診・特定保健指導と一体的に進めることが有効と考える十分なエビデンスがあった。横断研究から、噛めない人でメタボが多いことが確認された。介入研究から、早食い是正を行動目標とした特定保健指導で有意な体重減少を認めた。②「特定健診・特定保健指導への歯科関連プログラム導入マニュアル」を全国120人のグループワークを経て、作成した。本マニュアルでは松、竹、梅と3段階のモデルプランを用意した。③歯科衛生士の研修・人材育成は現状では不十分であり、保健師や管理栄養士を巻き込んだ基盤整備が必要と考え、ITツールを開発してホームページを作成した。千葉県に限れば、本研究を通じて、歯科医師会、歯科衛生士会との関係が強化され、次年度以降の介入研究に好影響をもたらした。千葉県は、医師不足の一方、歯科医師は充足しており、就職者数が少なく潜在歯科衛生士が多いため、歯科関係者を疾病予防・健康増進領域に誘導する価値の高い県であると考えられる。</p>			

(4) 追跡評価

整理番号	研究課題名	研究期間 (変更前期間)	総合 評価
15-27 H15 重点	安房地域の生活習慣病に関する疫学研究	平成 15 年度～ 平成 25 年度	4.4
<p><研究の概要></p> <p>千葉県民の生活習慣と健康との関係を明らかにし、健やかな長寿の実現に資することを目的として、旧鴨川市、旧天津小湊町（平成 17 年に合併し、現在は鴨川市）の住民を対象に、平成 15 年度にベースライン調査を実施。また、平成 20 年度に 5 年後の生活習慣調査を実施。その後、追跡調査同意者について平成 25 年度まで総合検診（以下健診）、死亡、介護認定状況及び疾患発症調査を実施した。これらの情報を用い、生活習慣と疾病の発生、死亡、介護認定との関連を検討した。</p> <p><研究成果></p> <p>鴨川市の 40 歳以上の全住民 23,073 人（平成 16 年 1 月時点）を対象にアンケート調査を実施し、10,739 人（応諾率 46.5%）から調査回答を得、その内追跡調査を同意した 6,503 人を 10 年間追跡した。10 年間で亡くなった人は 810 人（12.5%）、要介護者は 1,085 人（16.7%）であった。調査の結果、介護が必要となった人はやせている割合が高く、牛乳や卵、動物性たんぱく質の摂取が少なく、日常生活・社会生活の活動能力の高い人は、高齢になっても要介護になりにくかった。介護原因疾患としては、男性は各年代を通じ循環器系疾患によるものが多く、女性は筋骨格系疾患が多かった。介護度が高い原因疾患は、がんや循環器系疾患であった。また介護を必要とした人が亡くなる前の 5 年間の介護変化では、原因が認知症の場合は加齢と共に重度化し、筋骨格系では介護度はあまり変化していなかった。さらに受動喫煙による健康影響や疾病の発症状況、死亡原因など、男性と女性それぞれ異なる特徴がみられた。</p> <p>平成 21 年に中間報告を行い、現在はその後の追跡調査データを基にした報告書を作成し、県内市町村、医療保険者、調査協力機関等へ提供する予定である。</p> <p>平成 27 年度結果公表。報告書と共に概要版リーフレットを鴨川市及び関係各機関に送付、鴨川市民へは調査結果報告として、同リーフレットにより総合検診受診時に 3,000 人に配布するほか、小学校区単位での地区座談会において調査結果を報告した。調査結果はホームページに掲載した。</p> <p>公表結果については、千葉テレビニュース、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、千葉日報へ掲載された。</p>			